

バンングラデシユに進出

丸久

子供の丸久(徳島県鳴門市)は、バンングラデシユでの衣料品生産を目的に新会社「MARUHISA PACIFIC (マルヒサパシフィック) CO., LTD.」を27日に設立、10年4月から操業を開始する。取引先は、国内だけでなく外資系大手SPA(製造小売業)アパレルも視野に入れている。

大手欧米SPAの販売も視野



アウターでは初

所在地は首都ダッカの中心地から15キロに位置するナラヤンガンジュ県シジエPZ(輸出加工区)。資本金は7000万バンングラデシユタカ(約1億円)。規模は土地面積1万6350平方メートルで、まず第1期の縫製工場5400平方メートルを設け、第2期染色、第3期縫製と順次工場を新設予定。

右 EPN調印式での平石社長(前列)

定。売上高720万が、生産能力288万枚をそれぞれ第1期で見込む。販売先は丸久本体を通じて、イトヨーカ堂、イオンの大手GMS、しまむらなどの専門店チェーン、大手アパレルのSPA部隊に加え、将来的には欧米のSPAとの取引にも照準を合わせる。

同社は3年前から同国に注目、現地工場4軒への生産指導など生産依頼の経験を持ち、既に09年度は100万枚のアウターウェアをオーダーしている。同国における日系100%資本の衣料品製造輸出会社としては3番目、アウターウェアメーカーとしては進出第1号となる。

また、同社の海外生産拠点としては、90年操業

のタイ「MARUHISA INTERNATIO NAL CO., LTD.」95年の中国「丸久(青島)時装有限公司」に次ぐ3拠点目の工場設立。バンングラデシユが加わることで、海外生産構成は中国45%、バンングラデシユ30%、タイ25%となる予定。同国の人件費は月額50ユーロ前後と、ここ数年來の中国人人件費の高騰からくるチャイナリスク回避にも大いにつながるも期待している。

同国の輸出品目で衣料品が75.6%を占め1位で「日本での知名度は低い」が、世界的には繊維製品の一大産地。それに伴い産業インフラが整っている(平石雅浩社長)。設備面でも主にアジア製の編み立て、染色の機械(薬品含む)を使う中国に対し、欧州製の最新式機械を使用するため、中国にはできない「欧米的な風合い」が可能だとし

ている。また、同国は欧米の大手SPA企業にとっても一大産地となっており、世界最先端の商品トレンド情報などが得られることに加え、GSP(一般特恵関税制度)による日本、カナダ、豪州に無関税での輸出ができるコスト面での優位性などを指摘している。このため「欧米大手SPA企業への販売の足掛かりにしたい」意向。